

平成二十四年度

和歌山信愛女子短期大学附属中学校

入学試験問題 前期日程

国語

受験上の注意

- 一 問題用紙は1～18ページまでです。
開始のチャイムが鳴ったら確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、問題用紙と解答用紙の両方に書きなさい。
- 三 終了のチャイムが鳴ったら、問題用紙の上に解答用紙を開いたまま裏返しておきなさい。

受験番号

〈解答は、句読点や記号も一字分と数えて記入すること。〉

【一】 次の問いに答えなさい。

問一 線部①～④の漢字の読みをひらがなで答えなさい。また 線部⑤～⑧のひらがなを漢字に直しなさい。

- ① けんかを裁く。 ② 大軍を率いて戦いに向かう。 ③ 胸中を打ち明ける。
- ④ 干潮のときは海面が一番低くなる。 ⑤ ぜんあくの区別がつかない。 ⑥ 試験に向けてたいさくを行う。
- ⑦ はいくをよむ。 ⑧ この問題はとてもやさしい。

問二 次の□の中にならば後から選んだひらがなを漢字に直して入れ、対義語を完成させなさい。

- ① 苦手 ⇄ □ 意 ② 団体 ⇄ □ 人 ③ 集合 ⇄ 解 □
- ④ 温暖 ⇄ 寒 □ ⑤ 増加 ⇄ □ 少 □ ⑥ 結果 ⇄ 原 □

こ さん げん とく た いん れい

問三 次の _____ 線部と同じはたらきのものを後から選び、それぞれ記号で答えなさい。

① これは私の書いた手紙です。

ア 母の日のプレゼントを買う。

イ 机の上のペンは父のです。

ウ テレビを見るのはやめなさい。

エ 雨の降る日は練習が出来ない。

② 今日そんなに寒くない。

ア 大通りは車が多くてあぶない。

イ 妹が母の手伝いをしない。

ウ その本はあまりおもしろくない。

エ 家の近くには公園がない。

③ 明日は日曜日だ。

ア 友達が転校するそうだ。

イ 私たちの教室はここだ。

ウ 時間に遅れそうだったので急いだ。

エ 試合に勝てなくてとても残念だ。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

多くの種子は、発芽するために光に当たることが必要である。[A]、暗黒の中では、多くの植物種の種子は発芽しない。しかし、暗黒の中でも発芽する種子はある。身近なものでは、マメ科植物の種子である。ダイズなどモヤシとして食に供される植物は、暗黒の箱の中で発芽したものである。

モヤシは、色白で長身で、力がなさそうにヒョロヒョロと伸びる。だから、私たちは、背の高い細身の子を「モヤシっ子」と表現し、「モヤシ」をひ弱さを象徴する語として使う。[B]、①「モヤシ」は、本当に、ひ弱さの象徴にふさわしいのだろうか。

あるラジオ番組に出演した折、モヤシの話をしたことがある。番組終了後、その話の一部を抜粋して、六〇秒間の「見つめよう日本、身近な植物を知ろう」というキャンペーンのCMが制作された。そのCMはその後一年間、ラジオで流され、「日本民間放送連盟賞統一キャンペーンスポット部門優秀賞」と「ACC全日本CMフェスティバル秀作賞」を受賞した。

その内容は、「モヤシは弱くはありません。[C]、モヤシの生き方とは、太陽は上にあると信じてただひたすら背丈を伸ばし、生きようとするたくましいものなのです。だから、光が当たれば、上に伸びるのをやめます」というものだった。

太陽の光を見失った暗闇の中での植物の生き方がモヤシの姿である。真っ暗な箱の中で発芽して「なんとか光の当たっているとこるに出よう」と思い、太陽の光を探し求める。[D]、すべてのエネルギーを注いで懸命に背丈を伸ばす。そのけなげな姿が多くの人の心を打ち、受賞に至ったのであろう。

②そもそもモヤシとは何ものなのだろう。モヤシは八百屋さんやスーパーマーケットで売られ、ビタミン、食物繊維などが豊富で、手軽に調理できる重宝な野菜である。モヤシ炒めなどでなじみの深い、ごくありふれた安価な食材である。このモヤシの生き方が、多くの人々の心を打ったのだ。ということは、私たちが常日頃、身近な植物たちの生き方に、いかに無関心、無感動であるか

を意味している。「モヤシが暗黒の箱の中で育った植物であることを知らない」という人や、「モヤシという植物の種類がある」と思っている人が、意外と多い。この人たちには、「モヤシという名の植物は、光の当たるところでも、あのように育つ」と思われているようである。

「モヤシ」という名の植物種は存在しない。モヤシは植物種の名前ではない。植物の種子が光を与えられず、十分な水をもらって育てられると、「モヤシ」になる。市販されているものはダイズなどのマメ類の種子に十分な水を与え、光を遮った暗黒の箱の中で発芽させ、しばらく成長させたものである。イネや麦の種子でも、十分な水を与え、光を遮った暗黒の箱の中で発芽させ、しばらく成長させた芽生えは「モヤシ」と呼ばれる。

③では、モヤシを作るマメを土の中に植えた場合、土の中でマメはどのように育つのだろうか。暗黒の箱の中で育った芽と何かが違うのはあるのだろうか。

地中に埋まって発芽した種子は、土の中の暗黒で光を受けていないはずである。それゆえ、それらの芽生えが地表面に芽を出す前に土中から掘り出すと、暗黒で育ったモヤシとよく似ている。茎の色は白く、上部は釣り針のように曲がってその先に小さな閉じた黄白色の葉がついている。

ところが、土中から掘り出された芽生えの茎は、太くてたくましい。「茎はヒョロヒョロに長く伸びる」という暗黒の箱の中で示される特徴は消えている。考えてみれば、土の中を地表面に向かって伸びてくる茎が、モヤシのようにヒョロヒョロなものだったら、土の重さに負けてしまう。土を押しつけて地表面に出てくることができな。だから、土中の暗黒では太くたくましくなければならぬだろう。

モヤシのマメは、土の中の暗黒で発芽すれば、太くてたくましい茎になる。④弱々しくはだめなのだ。箱の中の暗黒と、土に埋もれている場合の暗黒を、植物は識別しているのだ。⑤なぜ、この違いは生まれるのであろうか。

「この原因は、土に含まれる栄養素である」と考える人は多い。「肥料が不足すれば、光が当たっていても、植物はヒヨロヒヨロと貧弱な成長しかしない。でも、肥料を与えれば、立派に成長する」ことが知られているからである。

「モヤシを真っ暗な箱の中で育てるときには水しか与えない。水しか与えなければ、ヒヨロヒヨロの細いモヤシになる。しかし、モヤシのママだって栄養を与えたら太くたくましい茎になるだろう。だから土に栄養があれば、太い茎のモヤシが育つのだ」と言われれば、正しいような気がする。

ところが、この場合はそうではない。伸びてくる茎が、土に触れるという刺激を感じる。この刺激が、茎を肥大させるのだ。植物が触れるという刺激に反応するというのは意外だろうが、「植物は触られると感じる」のだ。

植物は「土と触れる」「土と接触する」という刺激を感じる。本当に「植物が接触の刺激を感じるのか」と信じられない人は、植物をいつもなでまわしてみればよい。背の低いむっくりした植物になるだろう。

たとえば、大きなキクの花を一輪だけ咲かせるには、茎を太くせねばならない。そんなとき、茎を短く太くするための薬品がある。しかし、薬品を使わずにそうしたいときは、いつも地上部をなでまわしながら育てればよい。

「植物は、触られると感じる」性質がわかった背景には、多くの研究者の経験があった。研究者が植物の成長をおって記録する場合、多くの植物を植えて、その中から、測定用に特定の植物を決める。そしてそれを多くの植物の代表として、観察する。その際、手で触れて、茎の長さや葉の数などを測定する。

ところが、日が経つにつれて、測定の対象に決めた植物の成長だけが抑制されるのだ。いつの調査でも、まわりの植物よりも測定の対象になった植物の成長だけが抑制されてしまう。「なぜだろう」と、長い間、多くの研究者が不思議に思っていた。

その謎はこの性質の発見で解かれた。「植物は、触られると感じ、背丈の低い植物になる」ことを考えると、この現象は理解できる。

植物は、土の中にいるという「場所」を知る術を知っている。触れるという刺激を感じるのだ。植物たちの感覚は、私たちの想

像を越えている。「植物って、私たちが思っている以上にすごい能力をもっているんだ」と思ってしまう。

そう思っつて、モヤシをあらためてよく眺めてみると、⑥モヤシの奇妙な姿の真の意味が見えてくる。茎はヒヨロヒヨロで、先端は釣り針のように曲がり、その先に黄白色の小さな葉が閉じたままついている。でも暗黒の中の芽生えの生き方を考えると、一見奇妙に見える特徴が、暗黒の中で、生きようとする力強い姿なのだ。

（田中修『ふしぎの植物学』より

問一 に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使うことはできません。

- ア そして イ だから ウ むしろ エ たとえば オ しかし

問二 線部①「『モヤシ』は、本当に、ひ弱さの象徴にふさわしいのだろうか」とありますが、「モヤシ」は本当はどのようなものですか。その説明として最も適当な部分を本文中から四十字以内でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問三 線部②「そもそもモヤシとは何ものなのだろう」とありますが、モヤシの説明として適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア モヤシという名の植物種は存在しないが、そのことを誤解している人は意外に多い。

イ モヤシは近所の店で普通に売られており、我々になじみ深い食材としての一面をもつ。

ウ 一般に市販されるモヤシとは、マメ類の種子に、充分な光と水を与えて育てたものである。

エ モヤシはその力のなさそうな形態から、弱さを象徴する言葉として使われることが多い。

オ ささまざまな植物が、ある一定の条件下で育てることによってモヤシと呼ばれるものになる。

問四 線部③「では、モヤシを作るマメを土の中に植えた場合、土の中でマメはどのように育つのだろうか」とありますが、「土の中のマメの茎」と「暗黒の箱の中のマメの茎」は育った結果、どのように違いますか。本文中の言葉を使って五十字以内で説明しなさい。

問五 線部④「弱々しくはだめなのだ」とありますが、これはなぜですか。本文中の言葉を使って四十字以内で説明しなさい。

問六 線部⑤「なぜ、この違いは生まれるのであろうか」とありますが、その理由を説明したものととして最も適当なものを次

の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 植物は土の接触を感じると成長をやめてしまうという性質をもっており、土の刺激により、茎が弱くなってしまふから。
- イ 植物は日光の当たる方向に伸びていく性質をもっており、日光に当たり続けることによつて自然と強くなっていくから。
- ウ 植物は土に含まれる栄養素が多いほど強く育つ性質をもっており、その栄養素をどんどん吸収しながら大きくなるから。
- エ 植物はもともと触れられると感じるという特性をもっており、周囲の土からの刺激に反応し、肥大化していくから。
- オ 植物は種の段階ですでに、太くなる茎、細くなる茎が決まっております、その性質を周囲の土が引き出してくれるから。

問七 線部⑥「モヤシの奇妙な姿の真の意味が見えてくる」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最

も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ちっぽけな姿をしているモヤシではあるが、これが実は暗黒という環境に敗北してしまった結果の姿であるということを考えてみると、モヤシの姿に接する私たちはあらためて、植物が生きていく難しさを強く感じる事ができるということ。

イ モヤシの奇妙な姿は、暗黒の世界の中でも生き物が生きていかなければならない難しさをそのままあらわしていると考えると、共に苦しい環境の中で生きている私たちの方が、はげまされているような気になってしまうということ。

ウ モヤシの生命力にあふれた姿は、モヤシが植物としてもともと持っている力強さの結果だと考えてみると、モヤシと接する私たちは、その生き物としてのしたたかさを見習わなければならぬ気がしてくるということ。

エ 植物としてはごく普通のモヤシの姿であるが、暗闇の中でも自分に必要な養分を選び分けられる能力をそなえていると考えてみると、モヤシのことを知れば知るほど私たちはかえってわからなくなってしまうということ。

オ 一見、弱々しいモヤシの姿ではあるが、その姿はそこに光がないということを感じ取り、その暗黒の世界に適應するためであることを考えてみると、私たちはモヤシの中にひそんでいた生命力に気づくことができるということ。

問八 本文の内容を説明したものととして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 普通、植物が成長していく際には日光に当たることが必要であるので、日光なしで発芽し、成長していくモヤシは植物とは言えない。

イ モヤシを題材にしてつくられたキャンペーンCMは、その題材がめずらしかったことが人の関心をひき、様々な賞を受賞するにいたった。

ウ 様々な植物検査において、測定の対象になる植物がいつも大きく成長するという現象は、今でも研究者にとって大きな謎である。

エ モヤシのけなげに生きる姿を使ったCMが人の心を打ったという事実は、私達が身近な植物に対して無関心であることの裏返しである。

オ モヤシという植物は一般に弱さの象徴として使うことが多いが、モヤシの強さを知った以上、その使い方は今後やめるべきである。

【三】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小学生のその頃。オトンとオカンの間に養育費のような金銭的なやりとりがあったのかどうかは知らない。オカンは料理屋の仕事に出る時と、出ない時があったが、決して裕福であったわけがない。ノートや給食費は自分で賄^{まか}えても、なにしろ、自分の家がないのである。ばあちゃんの家に住んでいることは金銭的な問題なのか、他の取り決めがあったのかはわからないが。

しかし、ボクは一度も「うちには金がない」と思ったことがない。ましてや、貧乏^{ぼろ}だなんてことを感じたこともない。

オカンが人に気をよく配ったように、ボクも子供の頃、オカンに金銭的なことでは気をつかっていた。苦勞^{くろう}しているような様子も見せず、金の話も口にしないが、やはり、①この状況^{まわ}を子供ながらに察^さしていて、無理を言うことはなかった。

でも、「欲しい」と口にしたものは確実に買ってもらった。兄弟がいなかったからかもしれないが、オモチャも本も野球道具もレコードも、欲しいと言った次の日には買ってくれた。

そして、オカンはボクが赤ちゃんの頃からことあるごとに洋服を買い与えた。どこか親戚^{せき}の家に行く。法事がある。学芸会がある。合唱コンクールで指揮をする。なにかにつけて新しい服を買って、それに合わせた帽子^{ぼうし}や靴^{くつ}をかうことも多かった。

近所の人や親戚は、いつも新しい服を着ているボクを見て、「マーくんは衣装^{いしょう}持ちやねえ」と言った。

②ボクのものばかり買って、自分のものを買っている様子がないので、一緒にGパンセンターにGパンを買いに行った時、オカンにも無理矢理、なにか買うように勧め^{すす}めて、スエードのPATCHワークの付いたベストを買わせたことがある。そして、そのベストをずっと何年も着ていた。

オカンは時々、亡^なくなったおじいちゃんのことを仏様のような人だったと、一度も会うことのなかったボクに話して聞かせた。

おじいちゃんが生きていた頃は呉服屋を営んでいて、オカンも多分、着るものには不自由しなかったのかもしれない。しかし、オカンは昭和六年生まれ、思春期の頃は物のない時代。モンペをはいて学校へ女子が通っていた時代だ。

そんな時だったが、オカンが女学校へ入学した時、おじいちゃんはいろんな所を探し回って、その当時、周りでは誰も持っていないかった新品のローファーを買って来て、「明日から、これ履いて学校に行きなさい」と渡してくれたのだそうだ。

オカンはその新品のローファーが本当にうれしくて、友達に自慢で、学校に行くのが楽しみで仕方なかったと、ことあるごとにボクにその話を聞かせた。

③ そんな想いがあつてのことかもしれない。おじいちゃんがしてくれたように自分の子供にもそうしてあげようと思っていたのかもしれない。

ボクが大人になってからも、オカンはボクがファッションとしてのボロな格好をしていても、それを嫌った。

「仕事場にそんなボロの服を着て行ったらつまらんよ。着とるもので、人にナメられたらいけん」そんなことを言っていた。

イタリア系のマフィアがシルクのスーツを好んで着たようなものなのか、ダウンタウンの黒人がゴールドを身に付けスリー・ピースを着たがるようなものなのか、とにかく a 服装にはうるさかった。

そして、料理の好きだったオカンは、ボクひとり食べるだけの食事でも、何品もおかずを並べた。一品料理は目が寂しいと言つて、何品も小鉢を並べる。当然、食べきれずに残ってしまうが、その残りを次の食事に出すことがほとんどなかった。

小学校の友達も、東京で大人になってからの友達も、うちに来て一緒に食事をするといつもこんなにおかずがあるの？」と聞く。それとは逆に、それが当たり前だと思つて育つたボクはよそにお呼ばれすると「おかず、これだけなんだ……」と思つたりもした。

あとは寝具も頻繁に買い換え、取り換えた。着るものと口に入れるものと、肌に触れるものにはオカンは贅沢をした。他の部分は本当に つつましいものだったが、それはオカンの美意識だったのだろうか。そのおかげでボクは、自分が貧しいとも、恵まれてないとも思つたことがない。それは母ひとり子ひとりという環境の中で、ボクになにかを思わせまいと、一生懸命、無理してで

も張っていた部分なのかもしれない。

行儀にはとても厳しい部分と完全に野放しの部分が極端にあった。

ボクは四十歳になるうかという今でも、箸の持ち方がおかしい。どう間違っているのかといえば、文字で説明できないくらい、おかしい。おまけに、鉛筆の持ち方もかなりおかしい。どう間違ったらそんな持ち方になるんだというくらいにおかしいのである。しかも、それぞれがおかしいことを、ボクはかなり後まで知らなかった。オカンがちゃんと教えなかったからである。

「なんで子供の頃、いちいち教えなかったんね？」ボクが聞くとオカンは言った。

「食べやすい食べ方で、よか」

とても、ザツクリしているのである。

ところが、こういう局面では細かく、厳しい。

小学生の頃、誰かの家でオカンと夕飯を御馳走になったことがあった。家に帰ってから早速、注意を受けた。

「あんなん早く、漬物に手を付けたらいかん」

「なんで？」

「漬物は食べ終わる前くらいにもらいんしゃい。早いうちから漬物に手を出しよったら、他に食べるおかずがありませんて言いよるみたいやろが。失礼なんよ、それは」

うちにはオカンが「泥棒に入られて、これ持って行かれるのが一番困る」と言って大切にしていた「ぬか床」があった。

茶色の瓶に入れてあって毎日混ぜていた。ばあちゃんに分けてもらったぬかを少しずつ足したりへらしたりしながら大事にしてきたもので、これのベースになっているぬかは百年ものだという。古いものほど、いい漬物が漬かるらしい。しかし、ぬかは傷みやすく、毎日、混ぜなくてはならない。数日、家を空ける時は誰かに「混ぜ」を頼んだりしているくらいだった。

朝でも、夕でも。その食事をする時間を逆算して野菜をぬかに漬ける。胡瓜に蕪、キャベツや白菜。昆布や人参。それぞれの季

節の旬しゅんな野菜などを毎日漬ける。季節や野菜によって漬かる時間が異なるので、とても

X

がかかる。

夏は気温でぬかの温度が上がるため漬かりやすい。特に茄子なすのようにさらに漬かりやすい野菜を朝の食卓たに出すには、目覚ましをかけ、夜中に一度起きて、茄子をぬかに漬けてから、また寝る。するとボクが起きる頃には丁度よく漬かった、群青色じょうに輝かがやく茄子のぬか漬けが食卓に並んでいる。

④ そうやってオカンは、朝食に食べるぬか漬けのために、いつも目覚ましで夜中、明け方に起きていた。ぬか漬け時差のために夜中に目覚ましで起きて、あの強烈れつに匂におうぬかの中に手を入れる。これほど睡眠すいみんのまどろみと逆行する行為ゐも他にないだろう。しかし、そこまで苦勞して出来たぬか漬けは本当に旨うまい。一度、ぬかから上げるとすぐに変色して水分が出るので、そうならないうよう、適確な時間に漬けて、上げたら、すぐに食べと言った。

時々、野菜の質などによって予測できずに漬かり過ぎてしまうことがあるらしい。漬かり過ぎたぬか漬けは酸味が強過ぎていただけない。たまに失敗して上がってくる胡瓜なすなんかを切って出してみたものの、「ちよっと漬かり過ぎたねえ、食べなさんな。食たべんでよか」と職人の渋しぶい表情で漬かり過ぎた胡瓜を見つめ、⑤ ボクに食べさせずに全部自分で食たべたりしていた。

そんなぬか漬けがあるものだから、どれだけたくさんおかずが並んでいても、漬物は我が家で大変な御馳走ごちそうだった。ボクはそれを食べるのが楽しみで、そのために起きたりしていたから、突然、人の家では早めに食たうなど言われて戸惑まごった。

「うちではいいけど。⑥ よそではいいけん」

「きゅうりのキューちゃんやったんよ」

「なおのこといいけん」

ある程度大きくなって、人の家に呼ばれる時は、オカんに恥はをかかせないようにと、ちゃんとした箸の持ち方を真似まねてみたりするのだが、オカンはあまりそういう世間体よは気にしないようだった。自分が恥はをかくのはいいが、他人に恥はをかかせてはいけないという躰しつだった。

たまにボクの箸の持ち方を見て「⑦行儀が悪い」と言いたがる人がいる。また、そういう人に限って、温かい料理が運ばれて来てもなかなか手を付けず、ベラベラしゃべって、食べていない料理の上に煙草の灰を落としたりする人が多い。

行儀とは自分のための世間体ではなく、料理なら、料理を作ってくれた人に対する敬意を持つマナーである。こうした箸の持ち方程度のことでも天下でも取ったような物言いをする人は、えてして、料理人に対して「私はお金払ってる、お客よ！」という態度でいる形式ばった行儀の悪い人である場合が多い。こともあろうにその類の人は、そんな態度をとりながらも、勘定は人まかせだというのだから、その⑧行儀の悪さはもはや驚きである。

ちなみに、今までボクの鉛筆の持ち方を「変だ」と指摘した人の中で、ボクより字が上手だった人はひとりも居ない。

(リリー・フランキー『東京タワー』より)

問一 線部 a・b の意味として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- a 「服装にはうるさかった」
- ア 服装にはこだわった
- イ 服装に興味を持った
- ウ 服装で他人に差をつけたがった
- エ 服装について嫌みを言った
- b 「つつましい」
- ア はずかしい
- イ ひかえめな
- ウ きれいな
- エ つまらない

問二 線部①「この状況」について説明した次の文の空らんにはまる二字の言葉を、本文中からぬき出して答えなさい。

ボクの家が（ ）ではないという状況。

問三 線部②の「オカン」の様子の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 息子が勧めてくれたことによって以前からほしいと思っていたベストを買うことができうれしく思っている。
- イ 自分のために買ってもらったベストを大切にすることで、息子が別のものを買ってくれることを期待している。
- ウ 自分のものを買うつもりはなかったが、息子の勧めで買ったベストなのでうれしく思い、大切にしている。
- エ 息子に物を買ってやることについて喜びを感じつつも、自分の服装は全く気にならないので、同じものを着ている。
- オ ベストを着ることはあまりおしやれではないと思っているが、息子の好みなので仕方がないと思っている。

問四 線部③「そんな思い」とありますが、それはどんな思いですか。六十字以内で答えなさい。

問五 X には体の一部を表す漢字一字が入ります。適当な語を考えて答えなさい。

問六 線部④「そうやってオカンは、朝食に食べるぬか漬けのために、いつも目覚ましで夜中、明け方に起きていた」とありますが、このような「オカン」の行為に対する「ボク」の気持ちの説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「ボク」は「オカン」の行為を、「ぬか漬け」のために神経質になりすぎて痛々しいと感じている。

イ 「ボク」は「オカン」の行為を、「ボク」のために無理をしてくれてありがたいと感じている。

ウ 「ボク」は「オカン」の行為を、たかが漬物のために力を入れすぎていて頑固だと感じている。

エ 「ボク」は「オカン」の行為を、つまらないことにも強い意志を発揮していてすばらしいと感じている。

オ 「ボク」は「オカン」の行為を、物のない時代に知恵と工夫で乗り切ろうとしていて立派だと感じている。

問七 線部⑤「ボクに食べさせずに全部自分で食べたりしていた」とありますが、このときの「オカン」の気持ちとして適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア まずいものを息子に食べさせるのが嫌で、自分で責任を取ろうと思っている。

イ 漬かりすぎた漬物を作ってしまったて、自分の未熟さを少し悔しいと思っている。

ウ 漬かりすぎた胡瓜はけっこうおいしいので人に食べさせたくないとと思っている。

エ 一生懸命に作った漬物だが、失敗作は人には食べさせられないと思っている。

オ 息子を大事にする気持ちから息子にはいいものを食べさせようと思っている。

問八 線部⑥「よそではいけん」と「オカン」が言うのはなぜですか。四十字以内で説明しなさい。

問九 線部⑦の「行儀」の「悪」さと、線部⑧の「行儀の悪さ」を「ボク」はどのように思っていますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ⑦の方は一般的にだらしがないと思われる悪いことだと思っており、⑧の方は他人を人とも思わない、人間的に許されないことだと思っている。

イ ⑦の方は恥をかいていることに気づかない、直しようのないことだと思っており、⑧の方は他人に不愉快な思いをさせていることに気づかない軽率なことだと思っている。

ウ ⑦の方は自分が恥をかくだけのささいなことだと思っており、⑧の方は他人に対する敬意やマナーを欠いたもので明らかに悪いものだと思っている。

エ ⑦の方はその人の生い立ちとかかわる癖のようなものだと思っており、⑧の方はお金を払えば何でも許されると錯覚した嫌らしいものだと思っている。

オ ⑦の方は一緒にいる人に恥をかかせるような害のあるものだと思っており、⑧の方は他人を見下し、軽蔑するといった心中だけのことで害のないものだと思っている。

【一】(30点)

| | | |
|----|-------|----------|
| 問一 | ⑤ 善悪 | ① さばく |
| | ⑥ 対策 | ② ひきいて |
| | ⑦ 俳句 | ③ きょうちゅう |
| | ⑧ 易しい | ④ かんちゅう |

| | |
|----|-----|
| 問二 | ① 得 |
| | ② 個 |
| | ③ 散 |
| | ④ 冷 |
| | ⑤ 減 |
| | ⑥ 因 |

| | |
|----|-----|
| 問三 | ① エ |
| | ② ウ |
| | ③ イ |

【二】(36点)

| | |
|----|-----|
| 問一 | A イ |
| | B オ |
| | C ウ |
| | D ア |

| | |
|----|-------|
| 問二 | 太陽は上に |
| | くましまし |
| | いもの |
| | 問三 |
| | ウ |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|--------|---------|-----|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 問四 | で長く伸びて | が、暗黒の箱の | 土の中 | で育つ | た | マ | メ | の | 茎 | は | 太 | く | て | た | く | ま | し | い |
|----|--------|---------|-----|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|--------|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 問五 | て地表面に出 | 茎が土の重さ | に | に | 負 | け | て | し | ま | い | 、 | 土 | を | 押 | し | の | け |
|----|--------|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| | |
|----|---|
| 問六 | エ |
| 問七 | オ |
| 問八 | エ |

【三】(34点)

| | |
|----|-----|
| 問一 | a ア |
| | b イ |

| | |
|----|----|
| 問二 | 裕福 |
|----|----|

| | |
|----|---|
| 問三 | ウ |
|----|---|

| | | | |
|----|----|---|---|
| 問四 | く | を | 物 |
| | れ | 探 | の |
| | た | し | な |
| | こ | 回 | い |
| | と | っ | 時 |
| | が | て | 代 |
| | う | 新 | に |
| | れ | 品 | 、 |
| | し | の | お |
| | か | ロ | じ |
| | っ | ー | い |
| | た | フ | ち |
| | と | ア | や |
| | い | ー | ん |
| | う | を | が |
| | 想 | 買 | い |
| | い | っ | ろ |
| | 。て | ん | |
| | | き | な |
| | | て | 所 |

| | |
|----|---|
| 問五 | 手 |
| 問六 | イ |
| 問七 | ウ |

| | | |
|----|----|---|
| 問八 | が | 人 |
| | な | の |
| | い | 家 |
| | と | で |
| | 言 | 早 |
| | っ | め |
| | て | に |
| | い | 漬 |
| | る | 物 |
| | よ | を |
| | う | 食 |
| | で | べ |
| | 失 | る |
| | 礼 | と |
| | だ | 、 |
| | か | 他 |
| | ら | の |
| | 。お | |
| | | か |
| | | ず |

| | |
|----|---|
| 問九 | ウ |
|----|---|

| |
|--|
| |
|--|

平成二十四年度

和歌山信愛女子短期大学附属中学校

入学試験問題 中期日程

国語

受験上の注意

- 一 問題用紙は1～18ページまでです。
開始のチャイムが鳴ったら確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、問題用紙と解答用紙の両方に書きなさい。
- 三 終了のチャイムが鳴ったら、問題用紙の上に解答用紙を開いたまま裏返しておきなさい。

〈解答は、句読点や記号も一字分と数えて記入すること。〉

受験番号

【一】 次の問いに答えなさい。

問一 次の――線部①～④の漢字の読みをひらがなで答えなさい。また、――線部⑤～⑧のひらがなを漢字に直しなさい。

- ① 警笛を鳴らす。
- ② 明晩七時に集合してください。
- ③ 定石通りすすめる。
- ④ みんなのあこがれの的だ。
- ⑤ 多大なこうせきを残す。
- ⑥ 広場に押し寄せたぐんしゅうの声。
- ⑦ はくしきな先生。
- ⑧ 卒業式のしゆくじに感激した。

問二 主語と述語が対応する表現になるように、次の――線部を正しく直しなさい。

- ① 去年もらったプレゼントがいつの間にかなくしてしまった。
- ② 大切なのは、人の気持ちを思いやろう。

問三 次の①～④のことわざについて、

I に当てはまる漢字一字をそれぞれ書きなさい。

II ことわざの意味として正しいものを後のア～オの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 住めば

② 雨降って 固まる

③ 待てば 路の日和あり

④ 光陰 のごとし

ア 月日のたつのが早いこと。

イ いざこざが起こった後、物事がかえって落ち着きおさまること。

ウ 失敗が偶然よい結果を生むこと。

エ 住み慣れればどこでも良さがあること。

オ 我慢して待てば、よい時節が到来すること。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

二十世紀を見る切り口はいろいろありますが、象徴的にまとめると、^①「機械と火」の時代だったといえます。

火はエネルギー、主に電気と石油です。石油と電気を手に入れた人類は、エネルギーを大量にしかも便利な形で使えるようになりました。自動車、ジェット機、新幹線——これらのために、どれだけ活動範囲が広がったことでしょうか。どのような仕組みで動いているのかわからない複雑な機械も、もはや特別な人のものではなく、私たちの周りが機械だらけになっています。より便利に、豊かになりたいと思つて技術を開発した結果が機械に囲まれた生活であり、それを大量のエネルギーを使用することで支える。これが「機械と火」の時代です。

機械に象徴される物を作り出し、火を自由に操ることのできる能力を有しているのは、あまたいる生き物の中でも人間だけです。すから、日夜新しい技術を開発するのは人間らしい生き方の一つであるといえます。しかし、あまりにも機械に偏りすぎたために自然との関係が薄れ、私たちは人間は「生きる」ということの基本を忘れかけてきているように感じられるのです。

しかし、どんなに人間が「特殊な力を持っている」といっても、他の生き物たちと共通する部分があります。それを「機械と火」のように象徴的に表現するなら、「生命と水」ということになるでしょう。

私たちが生き物であることは紛れもない事実。命が基本ですし、生き物にとって「不可欠なもの」といえば、水です。もちろん、生きていくうえで大切なものはたくさんあります。人間だったら空気、食べ物、もちろん仲間も大事です。でも、^④「水はその中でも特別な位置を占めています」。

たとえば、太陽系にある星の中で、今のところ地球にしか生き物は見つかっていません。なぜ地球に生き物が生まれたのかと考えてみると、それは地球という星に水があったからでしょう。「母なる水」という言葉があるように、水は多くの生き物の命をはぐくんできました。またそれだけでなく、水がなければ、生き物は生まれることさえできなかったのです。

ところが、「機械と火」のすばらしさに惹かれて、人間は生き物が存在するための基本である「生命と水」を忘れがちになり、それを無視するかのような暮らし方を作り上げてきてしまった、そこに現代社会の問題があると思うのです。「機械と火」は否定すべきものではありません。けれども、二十世紀はあまりにもそちらに偏って、その結果、そんなつもりはなかったのに「生命と水」がおろそかにされてしまいました。

私が「生命と水」を強調するのは、文明を否定し、「機械と火」をすべて使わないようにしよう、原始の自然に還ろうといったものではありません。私たち人間が「ヒト」という生き物であることを肝に銘じ、自然との関わりを忘れずに生きていくことをいっているのです。

それでは、生きるということの基本とは、どのようなものなのでしょうか。私は、それを自分の生命を続け、子孫を残していくことだと考えています。特に、野生の生き物にとつて、これは大変なこと。食べ物を探し、住むところを確保し、敵から身を守り、子どもを産み、育てるという作業は、懸命にやらなければできません。その結果、あらゆる生き物がそれぞれ生きていく力を身につけました。

たとえば、蝶は、幼虫が食べ物に困らないように、幼虫のえさになる葉の上に卵を産みます。間違つたところに産んでしまつたら、子孫が残りません。蝶は前肢で葉っぱをトントンとたたきます。実は前肢の先には感覚器があり、C D この葉はえさになるのかどうかということを調べているのです。

こうやって、アゲハチョウなら柑橘類の葉、ギフチョウならカンアオイというように、間違えずに卵を産みつけます。しかも、ここでとても面白いことがあります。蝶としてはギフチョウのほうが古くから存在し、アゲハチョウはより進化した種です。一方、植物としてはカンアオイのほうが古くからあり、柑橘類はより進化したものです。そこで、アゲハチョウ（新しい種）の幼虫をカンアオイ（古い種）の上に置いてやると、それを食べて大きくなります。ところがギフチョウ（古い種）の幼虫を柑橘類（新しい種）の上に置いて食べてません。

つまり、この世の中に後から登場したものは、なんとか古いものを利用できるけれど、自分が登場したときに存在しなかったものは使えない。自然界にはこんな関係があります。「^⑤共進化」と呼びますが、進化も自分だけではできず、他の生き物——それは食べ物だったり、敵だったりいろいろですが——との関係の中で進化をとげているということなのです。

このように、生き物は懸命に生きようとした結果、皆で共に生きるという姿に落ち着きました。共に生きるとは、みんなで仲よく生きましようねというところから生まれた生き方ではありません。厳しい競争の中で、懸命に生きようとした結果、生きるためには共に生きるしかないということになったのです。

^⑥共生という言葉は、生物学では最初、相互に直接関係あるものに使われました。それも主としてお互いが相手を助けるハチと花のような関係に注目してきました。けれども、研究が進むにつれて、共生にはさまざまな形があることが分かってきました。どちらかは得をするけれど一方は損をするモンシロチョウとキャベツのような関係や、どちらか一方は得をするけれど一方は何の得も損もしないサメとコバンザメの関係も、共生という言葉で整理されるようになったのです。

このように、地球上のあらゆる生物は、お互いの関係なしには生存できず、すべてがネットワークを作っているわけです。この中のどこかにほころびができると、ネットワークはうまく働かなくなるので、共生は生態系を構成するすべての生物の関係と考えられるようになりました。もちろん、ヒトもその一員ですから、真剣に生きなければならぬと同時に、あまり勝手なことでもないということになるわけです。

しかし、二十世紀型文明は、人間を特別な存在と位置づけ、人間が自然を支配するという、^⑦キリスト教を基盤にしたヨーロッパ文明が世界に広がった形で生まれました。

自然は、地震もあれば噴火もある恐ろしいものです。一方、豊かな資源があり、多くの恵みをもたらしてもくれます。資源はできるだけ活用し、恐ろしさからは逃れようというのが、自然を支配しようとした人間の選択でした。そのためには、自然との間に距離をとるために人工の世界を作るのが最もよい方法です。暑さ、寒さという簡単なことを考えても、日本の真夏の満員電車で冷房が

ない状況^{きじょう}など、いまや想像もできません。

こうして、自然をどんどん遠ざけて人工の世界で固めようとしてできあがったのが、「機械と火」の文明というわけです。しかしその結果、こうして自然との関係に問題が生じているのですから、やはり我々ヒトは、自然の一部として、他の生き物と共生しているということ^{こと}を常に配慮^{りよ}しなければならないのではないかとというのが、ここでの考え方です。簡単にいえば、これまでのように人間と自然を人工の世界で切り離^{はな}す形の文明を作るのではなく、人間が自然と人工の世界をつなぐ形の文明を作ろうではないかということなのです。幸いなことに日本には水田を主体とした農地とその恵みを支える里山という、自然と人間とが共に豊かに育つ文化がありました。二十一世紀の暮らしはこのような考え方を基本に組み立てていけばよいのです。

(中村 桂子『生命と水』より)

問一 〜〜線部 a 「不可欠なもの」、b 「肝きもに銘めいじ」の意味として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

a 「不可欠なもの」

- ア 休むことができないもの
- イ 欠けてしまったもの
- ウ なくてはならないもの
- エ 自分で作り出せないもの
- オ 手に入れてはいけないもの

b 「肝きもに銘めいじる」

- ア しっかりと命令する
- イ よく事情を理解する
- ウ いらいらしないようにする
- エ 深く心にとめて忘れないようにする
- オ 何事にも驚おどろかないようにする

問二 〜〜線部 A〜D の品詞名を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|------|---|---------|---|----|
| ア | 動詞 | イ | 形容詞 | ウ | 形容動詞 | エ | 名詞(代名詞) | オ | 副詞 |
| カ | 連体詞 | キ | 接続詞 | ク | 感動詞 | ケ | 助動詞 | コ | 助詞 |

問三 ―― 線部① 『機械と火』の時代』とありますが、「機械と火」の関係の例として、適当ではないものを次の中から一つ選
び、記号で答えなさい。

ア ソーラーパネルを設置し、太陽光発電を行う。

イ 電池を購入して、懐中電灯を使う。

ウ ガスを使って、お湯を沸かす。

エ コンセントに差し込み、ドライヤーを使う。

オ 重油を燃料として、フェリーを動かす。

問四 ―― 線部② 「生きるということの基本」とありますが、筆者はそれをどのようなことだと考えていますか。本文中から
二十字以内でぬき出しなさい。

問五 ―― 線部③ 「特殊な力」とはどのような力ですか。「力」に続く形で本文中から三十字以内でぬき出しなさい。

問六 ―― 線部④ 「水は中でも特別な位置を占めています」とありますが、その理由を五十五字以内で説明しなさい。

問七 ——— 線部⑤ 「共進化」とありますが、次の中から「共進化」に当てはまるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 蝶がエサとなる葉に間違えずに卵を産みつけられるようになったこと。
- イ アゲハチョウの前肢の先に感覚器が備わったこと。
- ウ アゲハチョウがカンアオイから柑橘類への進化に貢献したこと。
- エ ギフチョウがアゲハチョウへと進化したこと。
- オ アゲハチョウの幼虫がカンアオイの葉も食べることができること。

問八 ——— 線部⑥ 「共生」とありますが、現在「共生」という言葉はどのような意味で用いられていますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 間接的に、相手に利益を与えながら生きること。
- イ 地球上のすべての生き物が、関係しながら生きること。
- ウ 二者の関係の中で、片方だけが利益を得ながら生きること。
- エ 害を与えあうことで、競争力を高めながら生きること。
- オ 同じ種が、共に同じ場所で支え合って生きること。

問九 ——— 線部⑦「人間が自然を支配する」とはどういうことですか。本文中の言葉を用いて五十字以内で説明しなさい。

問十 本文の内容として適当なものを次の中から二つを選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 「機械と火」の持つ魅力に負けてしまった人間は、一度原始の自然に還ることが大切である。
- イ 人間はあまりにも進化して自然の一部ではなくなったので、他の生き物と共生する必要はない。
- ウ 世界中に広がったヨーロッパ文明が、現代社会のすべての問題を引き起こしていると考えられる。
- エ 「生命と水」を大切にすること、人間が他の生き物との関係を配慮して生きることである。
- オ 新しい技術を開発することは、人間が二十一世紀を生きぬくための唯一の方法である。
- カ これからの文明は、人工の世界によって人と自然との距離を広げるものであってはならない。

【三】「俺（神谷新二）」と「一ノ瀬連」は同じ高校の陸上部の短距離選手です。「連」は「俺」から見ると天才的ランナー。二人とも「リレメン（リレーチームのメンバー）」に選ばれています。春期の県大会の「4継」（4×100メートルリレー）で人賞を果たしたリレーチームは南関東大会進出を決めますが、この試合で第二走を走った「連」は左足を痛めてしまいました。以下の文章は、南関東大会に向けて練習するチームとそれを指導する「三輪先生（みつちゃん）」の様子を描いた場面です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

南関東に出るのは、4継チームだけなので、他の部員は、次の大会に向けて新たな目標をたててトレーニングに励んでいる。長距離ブロックや棒高跳びの山下は他校に練習に行くし、円盤投げの大村は菅原さんのコーチを受けている。試合の有無にかかわらず、三輪先生が指導するのは、短距離ブロックが一番多い。ここは今ほとんどがリレメンなので、怪我のためメンバーから外れた連は、一年生と一緒に別メニューをこなしている。

事件は、試合の二日前に起こった。俺はバトンパス練習の真っ最中で、みつちゃんの怒鳴り声にバトンを取り落とした。それくらい、とんでもない大声だった。

「一ノ瀬一ツ、何してるんだ一ツ、やめろ一ツ」

みんな、連のほうを見た。やめろと言ってもやめていない連は、明らかに全力で走っている。トラックを半周近く……は全力で走り、徐々にペースダウンして止まり……。俺は連のところにダッシュで走った。みんな走った。

「大丈夫です。何ともありません。明後日、走れます」

連は先生に向かって言った。①みつちゃんは、ぶつけた車の傷でも調べるように連を見ていたが、そこで爆発した。力いっぱい平手で連の頬を張り飛ばした。

「馬鹿野郎一ツ。そんなに俺の言うこと聞けないんだったら、ここから出ていけ。もう二度と来るな」

怒声のあとの沈黙は痛いほどだった。

三輪先生のマジ怒った目がこわかった。みっちゃんって、どんなに怒ってても、どこかで笑ってるようなところがあって、みんな安心してゐるんだけど、今は違う。やばい。やばいよ。どうするんだよ。

「でも、本当に大丈夫なんです。自分の身体だからわかります。走れます」

連はぶたれた頬を触りもせず言い返した。このやばさがわかんねえのか。なんで、そんな普通にしゃべってるんだ。普通に逆らってるんだ。

「アスリートに怪我は付き物だ。すげえランナーになればなるほど、練習も過酷になるし身体に負荷がかかる。怪我との付き合い方も選手の実力の一つなんだ。これが三年の最後の全国大会だったとしたって、医者がダメと言ったものを、俺は走らすことはできねえよ。怪我でツブレた選手を何人も見てるんだよ。長いこと、この世界にいるとな、目先の試合に目がくらんで身体をぶち壊したアホウを色々見るんだよ」

みっちゃんは、まさに泡を吹いてしゃべっていた。

「いいか、よく聞け。俺のダチはな、大学の4継に出るのが夢で、そいつの実力ではレギュラーにはなれなかったんだが、たまたま故障者が続出して、関東大会を走れることになった。千載一遇のチャンスだったんだ。だが、そいつも膝に爆弾を抱えていた。故障を隠して痛み止めを打って練習を続けて試合に出た。ろくな走りができなかった。故障を隠して走ったことがバレて監督に叱られた。その時の無理がたたって、そいつは結局陸上をやめた。一つの故障は、ちゃんと治さないと続けると他に負担をかけるから、また新たな故障を呼ぶ。きちんと治していかないと結局どこもかしこも壊れることになる。選手生命にかかわるんだ。ナメたらいけねえ。後から悔やんでも遅いんだ」

勢いこんでしゃべっていた先生の言葉は途中から静かになり、切々とした調子になった。連だけでなく、皆が先生の言葉を聞いていた。異様な説得力があった。

「いいか、おまえも中学からやってるんだから、わかってるだろう？ 練習の全力走と試合の全力走は、ぜんぜん違う。力の出方や身体への負担がまるで違う。わかってるだろう？」

三輪先生は、ふうと大きく息をついたあと、不気味なほど静かな声になって、ゆっくりとそう言った。
俺は以前守屋さんから聞いた話を思いだした。

「前に先輩から聞いたことがあるんだ。みっちゃん、膝の故障で大学の陸上部をやめたって。みっちゃんは、大学で陸上をやる気はなかったらしい。でも、高校三年の時、4継で関東まで行って、決勝でバトンを落として全国に行けなかった。それで、なんか引きずっちゃまって、どうしても4継をまた走りたくて大学でも続けたっていうんだ」

膝を壊したって話、あれ、友達じゃなくて、みっちゃん、自分のことじゃないのか。

俺たちリレメンも絶対勝ちたいっていう気持ちばかりが先走って、実は連の身体のことを真剣に考えてなかったんじゃないのか。「確かに、走れるかもしれない。全力で走って、何ともない可能性もある。だがな、俺のダチみたいにダメになる可能性もあるんだ。ダメな可能性のほうが高いから、医者は無理だと診断してるんだ。俺は何も意地悪してるわけじゃない。俺がおまえを試合に出したくないとも思うか？ 俺が悔しかったり悲しかったりしないとも思うのか？」

連は返事をせずに黙って先生を見ていた。

先生の目がうるんで見えた。涙をこらえているように見えた。② 俺も胸の中に何かがせりあがってきた。

どうしても走りたい I の気持ち。どうしても走ってほしい II の気持ち。どんなに走らせてたくても走らせる

わけにはいかない III の気持ち。

このかたまりきった場面を救うために、俺は何か言わなきゃと思ったが、干上がったように声も言葉も出てこなかった。

「先生、すみません」

謝ったのは、守屋さんの声。守屋さんが連の隣に来て、連の頭を無理やり A 押すようにして、二人で礼をした。

「先生、勘弁してください。言いつけを破つてすみません。無茶してすみません」

「おまえが謝ることア……」

言いかけた先生の言葉を守屋さんは遮った。

「部長として部員の管理が行き届きませんでした。俺がもつとこいつに言つて聞かせないといけませんでした」

連が何か言いたそうに守屋さんを見たが、構わずに続けた。

「どこかで俺自身が一ノ瀬に期待していたのかもしれない。こいつと走ることをあきらめきれなかったのかもしれない。俺にそんな気持ちがあつたとしてもあつたら、一ノ瀬があきらめてくれるわけがないです。自分勝手でした。もしも、こいつに何かあつたら……」

守屋さんは、その先までは言わずに唇をかみしめた。

連は黙つて、守屋さんの横顔を見ていた。あきらめきれない無念そうな表情が、初めて連の顔に表れた。ずっと隠していた表情。心の内を連は決して顔には出さず、意固地に、淡々と逆らい続けていた。一度、悔しさをあからさまに表に出してしまうと、

B 少しずつ顔つきが変わつていった。連の中で何かがほどけていくようだった。

そうか……。俺はようやく理解した。守屋さんだ。あれは去年の合同夏合宿でのことだった。キツイ練習に加え、偏食気味の連は出された食事をほとんど口にしなかった。それを他校の先生から厳しく叱られて、その夜合宿所を脱出してしまった。あのととき、最悪退部になつてもおかしくないところをみっちゃんに報告せずに自分の胸にしまつておいてくれた守屋さん。その守屋さんのために……。4継という競技の魅力以上に、南関東という舞台の華やかさ以上に、^③連にとつて大きなものがあつたんだ。

「俺たちに任せてくれ、一ノ瀬」

守屋さんは **C** 言った。

「桃内、神谷、根岸、守屋、みんなで、めいっぱい走るよ」

めいっばい走ると大声で誓わないといけないのだが、声が出せなかった。泣きそうだった。根岸も、桃内もかたまつたように黙っていた。三輪先生は、口を D 引き結んで、何度もまばたきをしていた。

長く重い沈黙のあとで、

④
「ハイ」

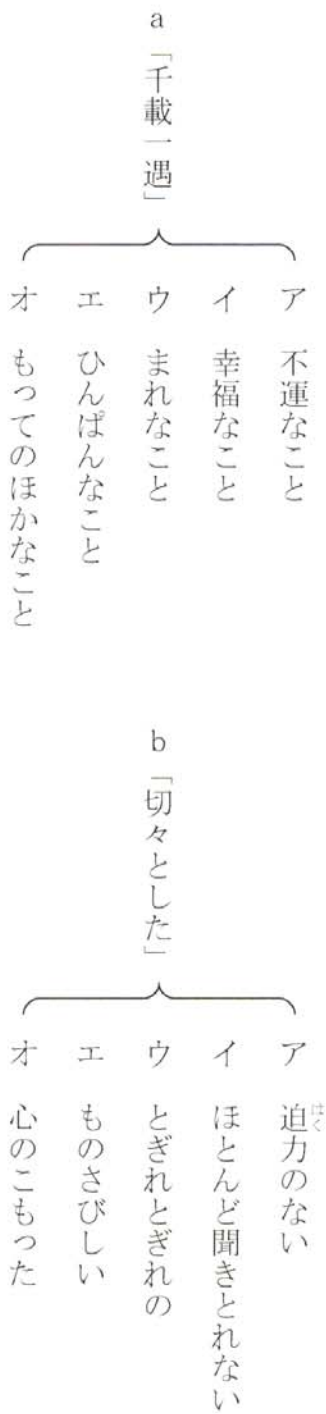
やっと、連がそう言った。

その時の連の目や声が、しばらく頭から離れなかった。悔しさや悲しさをふっと越えたような素直な目と声だった。

リレーという競技のことを、俺はまだ本当にはわかっていないのかもしれないと思った。一ノ瀬連という男のことも。ランナーとランナーのつながりのことも。

(佐藤 多佳子『一瞬の風になれ』より)

問一 〜〜線部 a 「千載一遇」、b 「切々とした」の意味として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。



問二——線部①「みっちゃん」は、ぶつけた車の傷でも調べるように連を見ていたが、そこで爆発した」とありますが、このと

きの「みっちゃん」の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「連」の怪我の状態をちらっと見ただけで、明らかに悪化していることに気づいたため、思わず大声を出してしまっている。

イ 「連」の怪我の様子を簡単に確認した後、何度も注意しているにもかかわらず安易な行動をとってしまう「連」に腹が立ち、強く叱りつけている。

ウ 「連」の怪我の状態を心配しながら丁寧に自分の目で確認した後、言いつけを聞かずに勝手な行動をとっていた「連」に対しての怒りをあらわにしている。

エ 「連」の怪我の状態を丁寧に確かめたところ、何の問題もなかったため、心配しすぎであったと恥ずかしくなり、それをごまかすために怒ったふりをしている。

オ 「連」の怪我の様子を注意深く確かめた後、自分の監督としての名声を高めてくれるほどの才能をもっていることに気づいていない「連」に腹を立てている。

問三 ——— 線部② 「俺も胸の中に何かがせりあがってきた」とありますが、このときの「俺」の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 「先生」の連に対する思いを知り心が揺さぶられている。
- イ 「先生」の意外な気持ちを知り急に気分が悪くなっている。
- ウ 「先生」の言葉に反応しない「連」に対してイライラしている。
- エ 「先生」の普段見せない涙を目にして強い違和感をおぼえている。
- オ 「先生」の発言に動じることなく冷静に事態の推移を見守っている。

問四

I

く

III

に当てはまる人物として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア リレメン
- イ 医者
- ウ 連
- エ 先生

問五

A

く

D

に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使うことはできません。

- ア プイと
- イ グイと
- ウ キツと
- エ きつぱりと
- オ じつくりと
- カ ゆつくりと

問六 —— 線部③「連にとって大きなものがあつたんだ」とありますが、「大きなもの」とはどういうことですか。四十字以内で説明しなさい。

問七 —— 線部④「『ハイ』やっと、連がそう言った」とありますが、このときの「連」の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「守屋さん」の「連」がいなくても大丈夫だという温かい言葉に背中を押され、「リレメン」のことを信じてみようという気になったが、「みっちゃん」に対しては依然として強い反抗心（こうごうしん）を持っている。

イ 「守屋さん」の「連」の才能を高く評価してくれている言葉には感動したが、「リレメン」や「みっちゃん」は何を考えているか分からないので、少し不安に感じており、しぶしぶ返事をしている。

ウ 「守屋さん」と一緒に走りたいという思いは依然として残っているが、「守屋さん」の心のもった言葉で、「みっちゃん」の気持ちも理解し、「リレメン」のことを信じてみようという気になっている。

エ 「守屋さん」の真剣な言葉によって、「みっちゃん」の「連」を心配する気持ちも理解できるようになり、とにかく怪我を治すことに専念し、次の大会に出ることを目標にしようと気持ちを切り替（か）えている。

オ 「守屋さん」の任せてほしいという言葉と、泣きそうな顔をしている「みっちゃん」や「リレメン」の様子に感動しているが、それを素直に認めるのはしやくなので、感情を押し殺し、ばれないようにしている。

受験番号

| | |
|-----|-----|
| 問一 | ⑤ ① |
| ⑥ ② | ⑦ ③ |
| ⑧ ④ | ④ |

| |
|------|
| 問二 ① |
| ② |

| | |
|------|---|
| 問三 ① | |
| II | I |
| ② | |
| II | I |
| ③ | |
| II | I |
| ④ | |
| II | I |

| |
|------|
| 問一 a |
| b |

| |
|------|
| 問二 A |
| B |
| C |
| D |

| |
|----|
| 問三 |
|----|

| |
|----|
| 問四 |
|----|

| |
|----|
| 問五 |
| 力 |

| |
|----|
| 問六 |
|----|

| |
|----|
| 問七 |
| 問八 |

| |
|----|
| 問九 |
|----|

| |
|----|
| 問十 |
|----|

| |
|------|
| 問一 a |
| b |
| 問二 |
| 問三 |

| |
|------|
| 問四 I |
| II |
| III |

| |
|------|
| 問五 A |
| B |
| C |
| D |

| |
|----|
| 問六 |
|----|

| |
|----|
| 問七 |
|----|

| |
|--|
| |
|--|

国 語 解 答 用 紙

受験番号

【一】(24点)

| | | | | |
|------|--------|---------|---------|------|
| 問一 | ① けいてき | ② みようばん | ③ じようせき | ④ まと |
| ⑤ 功績 | ⑥ 群衆 | ⑦ 博識 | ⑧ 祝辞 | |

問二 ① なくなっていました

② 思いやることだ

| | | | | |
|----|------|-----|------|-----|
| 問三 | ① | I 都 | ② | I 地 |
| | II エ | | II イ | |
| | ③ | I 海 | ④ | I 矢 |
| | II オ | | II ア | |

【二】(46点)

| | | |
|------|---|---|
| 問一 a | b | エ |
|------|---|---|

| | | | | | | |
|------|---|---|---|---|---|---|
| 問二 A | B | オ | C | エ | D | カ |
|------|---|---|---|---|---|---|

| | | |
|----|---|----|
| 問三 | ア | 3点 |
|----|---|----|

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 問四 | 自分 | の | 生 | 命 | を | 続 | け | 、 | 子 | 孫 | を | 残 | し | て | い | く | こ | と |
|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 問五 | 操 | 機 | 械 | に | 象 | 徴 | さ | れ | る | 物 | を | 作 | り | 出 | し | 、 | 火 | を | 自 | 由 | に |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 問六 | こ | で | 水 | は | 多 | く | の | 生 | き | 物 | の | 命 | を | は | ぐ | く | ん | で | き | た | だ | け |
| | と | は | は | な | く | 、 | 水 | が | な | け | れ | ば | 、 | 生 | き | 物 | は | 生 | ま | れ | る | け |
| | さ | な | く | え | く | で | 、 | な | か | っ | た | ら | 、 | き | 物 | は | 生 | ま | れ | る | け | |

| | | | |
|----|---|------|---|
| 問七 | オ | 4点問八 | イ |
|----|---|------|---|

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 問九 | 世 | な | 豊 | か | な | 資 | 源 | は | で | き | ら | だ | け | 活 | 用 | し | 、 | 地 | 震 | や | 噴 | 火 |
| | 界 | ど | か | な | 恐 | ろ | ろ | し | は | こ | と | か | き | れ | る | た | め | に | 、 | 人 | 工 | の |
| | を | の | な | 資 | る | こ | と | 。か | ら | は | 逃 | れ | 活 | 用 | た | め | に | 、 | 人 | 工 | の | 火 |

| | | |
|----|---|---|
| 問十 | エ | カ |
|----|---|---|

【三】(30点)

| | | | | | | | |
|------|---|---|---|----|---|----|---|
| 問一 a | ウ | b | オ | 問二 | ウ | 問三 | ア |
|------|---|---|---|----|---|----|---|

| | | | | | | |
|------|---|----|---|-----|---|----|
| 問四 I | ウ | II | ア | III | エ | 完答 |
|------|---|----|---|-----|---|----|

| | | | | | | | |
|------|---|---|---|---|---|---|---|
| 問五 A | イ | B | カ | C | エ | D | ウ |
|------|---|---|---|---|---|---|---|

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
| 問六 | 守 | 夏 | 合 | 宿 | の | と | き | に | 自 | 分 | の | こ | と | を | か | ば | っ | て | く | れ | た | |
| | 屋 | 合 | 宿 | の | と | き | に | 自 | 分 | の | こ | と | を | か | ば | っ | て | く | れ | た | | |
| | さ | 宿 | の | と | き | に | 自 | 分 | の | こ | と | を | か | ば | っ | て | く | れ | た | | | |

| | |
|----|---|
| 問七 | ウ |
|----|---|

問 次の文章を読んで、筆者の考えをまとめ、あなたの意見を述べなさい。(六百字以内)

みなさんは、一日をどうやって始めていますか。自分で起きていますか？それとも、誰かに起こしてもらっていますか？

目覚まし時計の力を借りても、自分で起きるようにする。「自立」にいたる過程で、それはとても大事なことだと僕は考えています。ところが、毎朝、自力で起きるのは、簡単なようではなかなかうまくいきません。実際、僕も、目覚まし時計の助けを借りてやっとの思いで起きています。寒い冬などは、なかなか布団から出られません。

ずいぶん前のことなのに、校長先生が全校集会で話された、朝起きるコツをいまだにおぼえています。たしか、三学期の始業式だったと思います。しんと冷えた空気が残る体育館で、校長先生が静かに話し始めました。

「冬の朝は誰でも起きるのがつらいものです。私は、目覚まし時計が鳴ったら、まず両手を布団から出して、パンザイのような格好をします。しばらくすると寒くなってきました。目が覚めてきます。次に上半身を布団から出します。その状態では寒くて長くは寝てられません。さつさと起きて服を着たくになります。私は、毎朝そういうふうに起きています。みなさんも自分なりの工夫をして、朝起きるようにしましょう」

生真面目そうな校長先生が、冬の朝に布団の中でパンザイしている。そして寒さに震えながら一生懸命起きようとしている。その姿を想像すると、なんだかとても愉快な気持ちになりました。僕は、目覚めの悪い冬の朝には真似をさせてもらっています。

では、どうして自分で起きることが「自立」するのに大切なのか、少しお話したいと思います。

みなさんは、ふだん、学校や部活、塾が中心の生活を送っていると思います。また寝る前には、多くの人が翌日の予定を確認していることでしょう。そうした日々の中で、できるだけ人に頼らず、自立的な生活を送るとすると……。ちよつと想像してみてください。

「明日、英語の小テストだって、どうしよう。今夜は、部活のあとすぐ塾だから復習できないし。明日、ちよつと早起きして勉強しようかな。それなら、目覚まし、セツトしななきゃ。えつと、何時に起きよう。六時だと、あんまり時間がないなあ。五時半にしようかな。無理かなあ……。それとも塾が始まる前に少し見とけば足りるかなあ」

「明日は、授業のまえに部活の朝練があるから五時には起きよう。だからいまのうちに部活の準備もしておこう。夕方の練習の分のTシャツも入れておこうかな。弁当を作るのはきついから、明日は食堂で済ませよう。やばっ、シャツにアイロンかかってないや。これはお母さんにやってもらおうかな……。そうだ、明日の天気は？置き傘どうしたっけ……」

不思議なもので、自分で起きることが習慣になつてくると、一日の流れの中で、自分がどう動くべきかが、自然と見えてきます。自分でできる範囲と、家族や仲間を手助けをお願いする部分とを分けて考えられるようになります。

つまり一日を自分で考えてやりくりしていく力がついてくるのです。それは、自立した生活者になるのに、とても大事な力です。なぜなら、世の中の多くのことが、時間という軸で動いているからです。時間とどう折り合いをつけていくかで、自分の生活が快適に送れるかどうかが決まるといっても過言ではありません。

そのためには「起きる理由(目的や楽しみ)」があることが大事です。それがあから人は、一日を有効に使おうと工夫したり、努力したりするようになるといってもいいのではないかと思います。「難しい」とか「ムリ」とか決めつけてしまわずに、とにかく何でもいいから朝の楽しみを見つけましょう。そして起きること自体を楽しむようにするのが、起きるのが楽しくなったら、人生は半分成功したようなものです。一日の始まりを、自分でコントロールできるようにすること、

これが自立への一歩となるでしょう。

(南野 忠晴 『正しいパンツのたたみ方』より)